

生態工学 2015 年第 2 回理事会議事録

日 時：2015 年 10 月 27 日（火）14:30～15:20

場 所：東京文化会館

出席者：会長、副会長、各委員会委員長および庶務理事

【総務委員会】

2015 年度生態工学会 第 2 回理事会

- (1) 会員数・賛助会員数に関して報告があった。
- (2) 報告事項
 - ・協賛依頼に関して
「第 26 回 SHITA シンポジウム」協賛依頼に関し承諾された。
 - ・日本農業工学会賞候補者推薦に関して
生態工学会より玉浦裕先生を推薦する事となった。
 - ・農業環境工学関連学会 担当に関して
生態工学会とし、北宅善昭先生、木部勢至朗先生となった。
 - ・ヤンマー資源循環機構 助成に関して説明がなされた。
 - ・「第 26 回 SHITA シンポジウム」協賛依頼に関して

【編集委員会】

2015 年度編集委員会活動報告(10 月期)

- (1) 生態工学会誌の発刊
下記の報告がなされた。

生態工学会誌「生態工学」27 巻 2 号～27 巻 3 号(2015 年 4 月、7 月発刊)を発行した（内容：原著論文 6、短報 2、特別寄稿 1、ニュース・企画・報告・お知らせ 1、投稿規程、総ページ 94）。現在準備中の 27 巻 4 号では、原著論文 1 報、短報 1 報を掲載予定。なお、2015 年 10 月 15 日時点での査読中の論文は、原著論文 2 報である。また、27 巻 3 号までを J-STAGE 上の電子ジャーナルとして公開した。

2015 年度「生態工学」掲載論文一覧

種類	第 27 巻			第 28 巻
	2	3	4	1
特別寄稿		1		
特集論文				
原著論文	2	4		
短報	1	1		
総合論文				
解説・資料				
受賞記念寄稿	1			
ニュース・企画・報告	1			

(2) 審議事項

生態工学誌の投稿料区分の新設および J-stage の閲覧権限の変更

下記が提案され理事会はこれを了承した。

- 委員会企画等の査読なし記事に関する投稿料の設定
委員会企画記事など、編集委員会以外査読等を行った記事に関して、従前は論文と同じ扱い投稿料を求めたが、別途投稿料および別刷料を規定した。(詳細の金額は編集委員会内規 掲載料および別刷料)
- J-Stage における閲覧権限の変更
現行は「最新刊のみ一般公開、それ以前は会員のみ、旧 CELSS 学会誌は一般公開」改訂後は「最新刊より 1 年間は会員のみ、それ以前は一般公開」とする。
なお、上記は第 27 巻 4 号より適用することとなった。

【企画委員会】

2015 年度企画委員会中間活動報告

下記の報告がなされた。

(1) 日本地球惑星科学連合2015年大会（合同開催）

日 時：2015年5月24日（日）～5月28日（木）

会 場：幕張メッセ（千葉市）

主 催：日本地球惑星科学連合

特記事項：5月24日（火）にセッション「惑星と閉鎖生態系における生物のシステム—微生物からヒトまで」において、5件の口頭発表と5件のポスター発表を実施。

(2) 2015年度生態工学会年次大会（主催）

日 時：2015年6月27日（土），28日（日）

会 場：明治大学黒川農場（神奈川県川崎市）

参加数：90名

特記事項：一般セッション口頭発表 15課題、ポスターセッション25課題

オーガナイズドセッション「研究者の生活 - 世代を超え伝えたいこと・知りたいこと」（次世代科学社会活性化委員会）

特別講演会「黒川農場からみた資源循環型農業の今と今後」

1. 廃液中の肥料成分量を低減させる培養液管理法 岡部勝美（明治大農場）
2. 身近な資源、尿の利用 ○小沢 聖（明治大農場）、後藤慎吉（国際農林水産業研究センター）、Samuel M. Contreras（Bureau of Soil and Water Management Philippine）、中西康博（東京農業大）
3. 水の力でゴミを肥料に-亜臨界水処理による有機液肥製造の試み-
○藤原俊六郎、小沢 聖、鈴木千夏、七夕小百合（明治大農場）、
朽本信彦（フジムラインベント株）、玉置雅彦（明治大農学部）

(3) 農業環境工学関連5学会2015年合同大会（共催）

日 時：2015年9月14日（月）～18日（金）

会 場：岩手大学（岩手県盛岡市）

特記事項：オーガナイズドセッション 16テーマ、一般発表、ポスター発表等

合同シンポジウム「東日本大震災からの地域と農業の復興」

仙台平野沿岸部における水田農業の復興

大谷隆二（農研機構 東北農業研究センター）

ローテクを生かせ！～身の丈に合った農業振興～

松嶋卯月（岩手大学農学部）

放射性物質汚染からの農業復興を目指して

～元飯舘村職員が見た現実と未来～

万福裕造（国際農林水産業研究センター）

主役は誰か？～コミュニティづくりの取り組み～

船戸義和（岩手大学三陸復興推進機構）

(4) The Joint Conference of 6th ISPS and 10th ITTW（協賛）

日 時：2015年 9月14日（月）～ 9月18日（金）

会 場：同志社大学（京都市）

主 催：日本マイクログラフィティ応用学会

特記事項：17日（木）に「Beyond the ISS」セッションで全11件中当学会より4件講演。

講演会自体には20ヶ国より約250名が参加、約半数が国外からで盛会であった。

(5) 第59回宇宙科学技術連合講演会（共催）

日 時：2015年10月7日（水）～10月9日（金）

会 場：かごしま県民交流センター（鹿児島県鹿児島市）

主 催：日本航空宇宙学会

特記事項：オーガナイズドセッション「宇宙で生きる！」を企画。8日(木)に11件の講演、参加人数は30人ほどだったが例年になく議論が活発であった。講演会自体には900名以上の参加、今回は2016年9月函館が予定されている。

(6) 定例シンポジウム（主催）

日 時：未定

会 場：未定

(7) 定例研究会

第1回

テーマ：高宇宙環境耐性を有する陸棲藍藻Nostoc sp. HK-01（仮）

日 時：2015年5月29日（金）

会 場：東京文化会館

講 師：木村駿太先生（若手の会代表、筑波大生命環境）

第2回

テーマ：宇宙エレベーター建設構想

日 時：2015年10月27日（火）

会 場：東京文化会館

講 師：石川洋二先生（大林組宇宙エレベーター要素技術実証研究開発チーム幹事）

以上

【表彰委員会】

2015年度表彰委員会活動報告(10月期)

下記の報告がなされた。

(1) 表彰式の実施

2015年6月27日、明治大学黒川農場にて開催された2015年度総会の後に表彰式を行ない、以下の通り表彰した。

【生態工学会賞学術賞】

大西 充 殿

宇宙用生命維持技術の研究

【奨励賞】

田村 匡嗣 殿

交流高電圧印加電極上で保蔵したハウレンソウの品質に関わる特性変化の検討

千葉 陽介 殿

大豆麴を加えた味噌原料の熟成中のORACと色の変化

【特別功績賞】

大政 謙次殿

生態工学に関する一連の研究および学会運営に対する功績

【講演論文賞】

松本克廣 殿, 中林和重 殿, 高橋昂平 殿, 堀江良一 殿, 内田純 殿

サンゴ砂礫農法におけるミニトマトの実証栽培過程報告 (その2. 品種による違い)

山崎優司 殿, 田村匡嗣 殿, 齋藤高弘 殿, 岡本竹己 殿, 桐原広成 殿

大豆や添加微生物が味噌の抗酸化性に与える影響

岡田涼汰 殿, 遠藤雅人 殿, 栗原紋子 殿, 竹内俊郎 殿

クエ飼育排水を用いたクビレズタの培養と物質吸収の推定

(2) 2016 年度学会賞候補者の募集

2016 年度学会賞候補者の推薦を募集した (vol. 27 No. 3 に掲載)。

締め切りは 10 月 31 日。

(3) 2015 年度学会賞受賞者の紹介

2015 年度学会賞を受賞された方々の紹介記事を学会誌 vol. 27 No. 3 に掲載した。

(4) 賞状および記念品の送付

2015 年次大会において講演論文賞 (3 件) を受賞された方々に賞状と記念品の準備を行い、送付した。

以上

【広報委員会】

2015 年度広報委員会活動報告 (10 月期)

下記の報告がなされた。

・ 2015 年度活動報告

・ SEE Quick (メール配信) の運営

SEE Quick 配信依頼に対する取り扱い方法の運用を通して、会員並びに関連学会からの情報の速やかな配信業務が成し遂げられ 2015 年 4 月 1 日から 2015 年 10 月 13 日までに 69 回 (通算 1098 回) 情報提供を行った。

・ HP の内容の更新

HP の内容のうち、会長の交代に伴う頁の更新を行った。

以上

【次世代科学社会活性化委員会】

2015 年度次世代科学社会活性化委員会活動報告(10 月期)

下記の報告がなされた。

- ・地球惑星連合 2016 参加
（閉鎖生態系における生物のシステム）
今回若手を中心に参加者を募る予定（若手の会と相談）
- ・男女共同参画学協会連絡会シンポジウムに参加し生態工学会として資料集およびポスター発表を行った。（2015 年 10 月 17 日千葉大学）
- ・若手の会の理事会後の研究会参加を促し、本日参加している。

以上